

学校教育目標		学校経営の重点			令和6年度			令和7年度			評価結果分析									
児童生徒一人一人の人権と個性を尊重し、自立と社会参加に向け、豊かな心と主体的に考え行動する力を養う。		①児童生徒の安全・安心の確保 ②一人一人の教育的ニーズに対応した教育の充実 ③交流及び共同学習の実施 ④体験学習の実施 ⑤キャリア教育・進路指導の充実			教員結果			保護者結果				教師と保護者の差								
					評価	数値	評価	数値	評価	数値			前年との差	評価	数値	前年との差				
領域	評価の観点	評価項目	No	重点項目	実践目標	評価	数値	評価	数値	教師と保護者の差	評価	数値	前年との差	評価	数値	前年との差	教師と保護者の差			
学校経営	開かれた学校づくり	家庭や地域との連携	1	①	保護者や地域住民が参加しやすい学校行事やPTA行事となるよう工夫する。	A	94%	A	91%	3%	A	89%	-4%	A	87%	-4%	3%	<p>○開かれた学校づくり</p> <p>評価は全てAとなっており、教員・保護者共にできていると感じている。</p> <p>2 教員評価では13%の減少が見られる。これは教員の目標が高くなったからと考えられる。しかし、保護者の「4できている」は11%増加しているが、さらに丁寧で効果的な連携・協力を家庭や地域と行う。</p>		
			2	①	家庭や地域の意見や要望を反映するなど、連携・協力して取り組む。	A	94%	A	85%	8%	A	81%	-13%	A	85%	-1%	-4%			
			3	①	学校ホームページや学校ブログを活用して、家庭や地域に最新情報を発する。	A	98%	A	90%	9%	A	96%	-2%	A	95%	5%	2%			
	進路指導	進路指導体制の充実	4	⑤	卒業後の自立と社会参加をめざし、関係機関と連携して進路指導を行う。	A	81%	/	/	/	/	A	86%	5%	/	/	/	/	<p>○進路指導</p> <p>学校からの発信が確実に評価に繋がっていると考えられる。</p> <p>4 微増ではあるが、指導体制が向上していると考えられる。進路指導部を中心にさらに体制の構築を進めていく必要がある。</p> <p>5 昨年度に引き続き教員評価・保護者評価共にBであるが保護者の評価は向上していることが分かる。進路に関する関心と要求の高さを、表していると考えられる。</p>	
			5	⑤	将来像を見据え、教員や保護者の進路意識を高める研修会を行う。	B	77%	B	66%	11%	B	68%	-8%	B	78%	13%	-10%			
	教職員の資質向上	実践的指導力と専門性の向上	6	②	教育愛と使命感を持ち、特別支援教育の専門性を高める研修を行う。	A	86%	/	/	/	/	A	81%	-5%	/	/	/	/	<p>○教職員の資質向上</p> <p>7 「3ほほできている」が8%増となっている。教員の授業に関する自己評価は徐々に上がって来ていると考えられる。</p> <p>研修を通して教員の教育力が向上し、専門的な知識へのニーズが向上したと捉えることができると考える。</p>	
			7	②	一人一人の目標と手立てを踏まえた指導案を作成し、授業力を向上させる。	B	78%	/	/	/	/	/	A	84%	6%	/	/	/		/
	防災・安全教育・危機管理	危機管理体制の充実	8	①	障害の重度・重複化、多様化に対応して安全点検を行い、学習環境の改善を図る。	B	70%	/	/	/	/	A	84%	14%	/	/	/	/	<p>○防災・安全教育・危機管理</p> <p>8 肯定的評価が14%増加しており、評価がBからAになっている。校内の学習環境は改善されていると考えることができる。今後も継続して、改善を行う。</p> <p>9 肯定的な評価が、教員保護者ともに増加となっている。これは、校内においては避難学習の充実が進んでいることを表していると考えられる。校内の避難訓練の充実が、教員評価に反映されているので、保護者にもその充実した内容を丁寧に伝えていく必要がある。</p> <p>10 「4できている」の評価が、教員保護者ともに増えている。また、「1できていない」の評価は、ほぼ見られなくなった。学校ホームページや外部への情報発信において、丁寧に確認を行うことがよい評価に繋がったと考えることができる。さらに確かな個人情報の管理を目指し、学校全体がひとつになって実践していく。</p> <p>11 肯定的評価が10%減となっている。この評価は、今年度のインフルエンザ流行が、昨年度より早く訪れたことに起因すると考えられるが、いつ感染症の流行が起こったとしても、安全で安心な体制を維持できるように、総務保健部を中心に体制強化と校医、養護教諭、外部機関等との連携強化が考えられる。</p>	
			9	①	防災・不審者対応訓練、交通安全教室を実施し、状況に応じた行動ができるよう避難学習を行う。	A	86%	A	88%	-2%	A	96%	11%	A	92%	5%	4%			
		10	①	児童生徒の個人情報(名前や写真など)を適切に管理する。	A	92%	A	97%	-5%	A	93%	1%	A	98%	1%	-5%				
	個に応じた指導の充実	一貫教育の推進	12	②	小・中・高で児童生徒及び指導支援の情報共有し、連続した指導を行う。	B	61%	/	/	/	/	B	72%	11%	/	/	/	/	<p>○個に応じた指導の充実</p> <p>12 学校内での情報共有を推進し、校内だけでなく、地域校から入学してきた生徒についても確かな情報共有を推進し進める必要がある。</p> <p>13 成果は上がっているが、教員の目標が向上しているため、相対的に教員評価が減少していると考えられる。</p> <p>13・14は保護者との連携・作成・活用・評価まで、引き続き実践していく。</p> <p>15 研修の評価(質問6)、支援や指導(質問12・13・14)について、教員の目標が向上することにより評価の低下が考えられたが、ここでも同じ現象が起こっていると考えられる。</p> <p>17 引き続き同僚や管理職からの助言を通して、専門性の向上を目指していく。</p> <p>18 保護者評価において「4できている」が12%増加している。教員評価にほぼ変化が見られないが、保護者評価に表われていることから、ここでも教員の目指すレベルが向上したことによる教員評価と保護者評価に差が出る現象であると考えられる。</p>	
			13	②	児童生徒の将来像や伸ばしたい点など、一人一人の教育的ニーズに基づいて目標を設定し、地域資源を活用するなど適切な支援を実現する。	A	83%	A	90%	-7%	B	79%	-4%	A	93%	4%	-14%			
		個別の教育支援計画の活用	14	②	個別の教育支援計画を踏まえて実態に応じた具体的な目標と手立てを定め、適切な指導や評価を行う。	A	92%	A	93%	-1%	A	93%	1%	A	97%	4%	-4%			
			15	②	各教科等における個別の目標に基づき、興味・関心、得意分野を生かすなど指導の手立てを工夫する。	A	88%	/	/	/	/	/	A	86%	-2%	/	/	/		/
		指導方法や指導体制の工夫	16	②	個別の目標や指導の手立てを共通理解し、指導者間の役割分担とチームワークで授業の充実を図る。	B	77%	/	/	/	/	/	B	79%	2%	/	/	/		/
			17	②	的確な実態把握に基づき、児童生徒一人一人の目標及び課題を明確にし、指導及び支援内容の設定を行う。	A	88%	/	/	/	/	/	A	91%	4%	/	/	/		/
	自立活動の指導の充実	18	②	ICT機器を効果的に活用することで個々の児童生徒に応じたきめ細かな指導・支援を行い、学習活動の充実を図る。	B	80%	B	78%	2%	A	82%	3%	A	88%	10%	-6%				

自立と社会参加の促進	体験活動	19	④	教科等の学習と体験活動を関連づけることで意欲を引き出し学習効果を高める。	A	92%			A	88%	-4%				○自立と社会参加の促進 20 相対的に教員・保護者で、共に肯定的評価が増加している。また、昨年度に引き続き今年度も、教員評価に比べて保護者評価が高くなっている。教員はより高い目標を目指して実践し、その結果が保護者にしっかりと伝わっていると考えられる。 21 引き続き、効果的なな集団活動を企画・実践していく。		
		20	④	家庭生活や地域生活に結びついた体験活動で自立と社会参加への意欲と態度を養う。	B	75%	A	84%	-9%	B	79%	4%	A	91%		6%	-12%
	集団活動	21	⑤	豊かな人間関係を育むために、年齢や障害の違いを超えたより活発な集団活動を計画する。	B	75%				B	79%	4%					
人権教育	人権教育の推進	22	②	児童生徒が社会で生き生きと暮らせるよう、命の大切さや思いやりの心、コミュニケーションの力、ルールやマナー等を育成する。	A	81%	A	92%	-10%	A	91%	10%	A	91%	-1%	0%	○人権教育 22・23 実践を充実させていきながら、保護者への発信もしっかりと行うようにする必要がある。
	人権意識の向上	23	②	人権に配慮した指導(言葉遣いなど)やいじめ早期発見のいじめアンケートを定期的実施する。いじめを許さない学校をテーマとして、人権を意識した研修に取り組む。	B	80%	A	93%	-13%	A	96%	17%	A	90%	-3%	7%	
課題教育	居住地校交流及び学校間交流の推進	24	③	年間計画を立てて育てたい力を明確にし、児童生徒同士の充実した活動になるようしっかり打ち合わせを行って実施する。	B	78%				A	81%	3%					○交流及び共同学習 24 少しずつ居住地校交流のねらいや方法が定着してきていることがうかがえる。 25 肯定的評価が、教員保護者ともに評価は増加している。地域住民との交流が充実していることが分かる。
	地域との交流	25	③	校内における地域住民との交流活動の充実を図り、積極的にかかわりを持つ。	B	78%	A	85%	-7%	A	88%	10%	A	91%	5%	-3%	
保健・健康指導	食育の推進	26	①	教育活動全体において食育を推進し、食への関心を高め、家庭と連携して望ましい食習慣の確立を図る。	A	83%	A	95%	-12%	A	91%	8%	A	94%	-1%	-3%	○保健・健康指導 26 肯定的教員評価が増加し、保護者評価と合わせて高くなっている。食育の推進が肯定的に受け止められ効果を上げていることが分かる。
センター的機能	校外支援の取組	27	②	地域の学校や保護者のニーズを把握し、教育相談や講師派遣、就学相談、進路相談等、地域のセンター的機能の充実を図る。	B	75%				B	79%	4%					○センター的機能 27 市町教育委員会と連携し地域のセンター的機能を充実させていることが、肯定的評価の増加に繋がっていると考えられる。

全体総括

・今年度も全体で概ね良い評価である。
 ・学校経営に関しては、概ね評価が高い。特に家庭や地域との連携については評価が高い。進路指導に関しては教員及び保護者からの期待度が高くなっている。校内の進路指導体制と内容の充実、教員の専門性向上、保護者への密な情報提供を行うことが改善案として考えられる。
 ・教育課程についても保護者評価が高い。教員評価においては、教員が求める水準が上がり、そのため教員評価が高くないということが考えられる。一貫教育の推進、個別の教育支援計画の活用、体験活動、集団生活でより効果的な実践が求められる。
 ・課題教育については、教員評価において人権意識の向上、居住地校交流及び学校間交流の推進、地域との交流の評価が高くなった。校外支援の取組については、ニーズが多く期待感が高いことが表われていると考えられる。